

2018年度 卒業生アンケート調査結果

FD委員会/IRセンター

【Ⅰ. 調査の概要】

1. 調査対象 2015年度から2017年度の間東北福祉大学を卒業した通学の正科生

2. 調査期間および方法

2018年8月1日～9月30日に実施。東北福祉大学の同窓会ホームページ等で調査への協力の呼びかけを行った上で、Googleのサービスを利用しインターネット上でアンケートの回答を行ってもらった。

3. 回答人数 48名から回答が得られた。

【Ⅱ. 結果】

1. 回答者の基本属性

1) 回答者の性別と年代など

回答者の性別、入学年度、卒業後の年数、卒業時の所属学科を表1～4に示した。性別に関しては女性の回答者が多かった。また卒業後年数に関しては昨年度卒業の回答者が、所属学科は社会福祉学科が最も多かった。

表1 性別

	度数	%
男	15	31.3
女	33	68.8
合計	48	100.0

表2 入学年度

	度数	%
2011年度	1	2.1
2012年度	6	12.5
2013年度	10	20.8
2014年度	31	64.4
合計	48	100.0

表3 卒業後年数

	度数	%
1年未満	31	64.4
1年以上2年未満	12	25.0
2年以上	5	10.4
合計	48	100.0

表4 卒業時の所属学科

	度数	%
社会福祉学科	10	20.8
社会教育学科	7	14.6
福祉心理学科	6	12.5
産業福祉学科・産業福祉マネジメント学科	2	4.2
情報福祉学科・情報福祉マネジメント学科	4	8.3
子ども教育学科・教育学部	4	8.3
保健看護学科	3	6.3
リハビリテーション学科	2	4.2
医療経営管理学科	10	20.8
合計	48	100.0

2) 回答者の現在の職業など

現在の職業等に関する回答を表5～表8に示した。現在の職業等については2名が複数の選択肢を回答しており、1名は「学校等在学中」と「就職活動中」とを、もう1名は「企業」と「保健医療」とを回答していた。

また、現在就労中の回答者の81% (42名中34名)が正規職員として仕事に重視していた。

表5 現在の職業等

	度数	%
社会福祉施設	8	16.7
公務員・団体	9	18.8
企業	10	20.8
保健医療	7	14.6
教員	6	12.5
その他の職業(自営など)	3	6.3
学校等在学中	3	6.3
就職活動中	2	4.2
その他(病気療養中など)	2	4.2

(複数回答あり)

表6 「社会福祉施設」と回答した者の職種

	度数	%
老人福祉(保健)施設	3	37.5
障害(児)支援施設	1	12.5
保育所・保育園	2	25.0
保育所・保育園以外の児童福祉施設	2	25.0
合計	8	100.0

表7 「企業」と回答した者の職種

	度数	%
技術職	3	30.0
営業職	2	20.0
事務職	2	20.0
販売	1	10.0
工場	1	10.0
回答無	1	10.0
合計	10	100.0

表8 就労中の回答者の雇用形態

	度数	%
正規	34	81.0
非正規	7	17.7
無回答	1	2.3
合計	42	100.0

3) 現在の仕事の充実度・離職回数

今回の調査では、現在就業している方を対象に、「現在の仕事についてどの程度充実感を感じながら働いているか」について「1.まったく充実感を感じていない」～「4.とても充実感を感じている」の4件法で尋ねた。その回答結果を図1に示す。「やや感じている」と

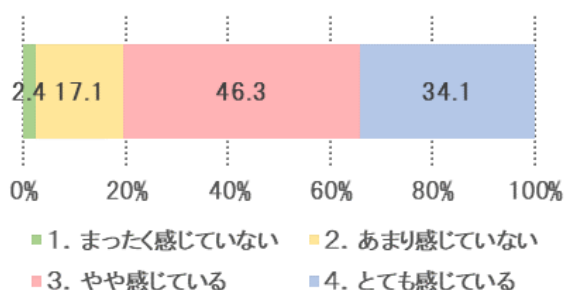


図1 現在の仕事の充実感 (n=41)

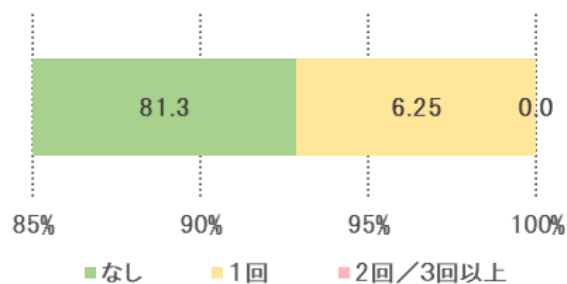


図2 離職回数 (n=42)

てもかんでいる」のいずれかに回答した者が 41 名中 33 名で、この質問に回答した人の 80%以上を占める結果であった。

また離職回数に関する回答結果を図 2 に示した。この質問に回答した 42 名のうち 39 名 (81.3%) が離職の経験はないと回答した。また 2 回以上離職したことがある人は一人もいなかった。

2. 回答者の在学中の学びや経験

1) 在学中の経験

在学中に経験したことについて回答者が在学中に実際に経験した内容を幾つかの選択肢の中から複数選択可で選んでもらった。各内容を選んだ人数とその割合を図 3 に示した。在学中の経験について、最も回答が多かったのが「アルバイト」(79.25%)、次に「ボランティア活動」(62.5%)、「在学中の資格取得」(68.8%)であった。逆に最も回答が少なかったのが「国内での国際交流」(4.2%)で、次に「海外留学・海外研修」「学内科目の『インターンシップ I もしくは II』の履修(ともに 8.3%)が続いていた。

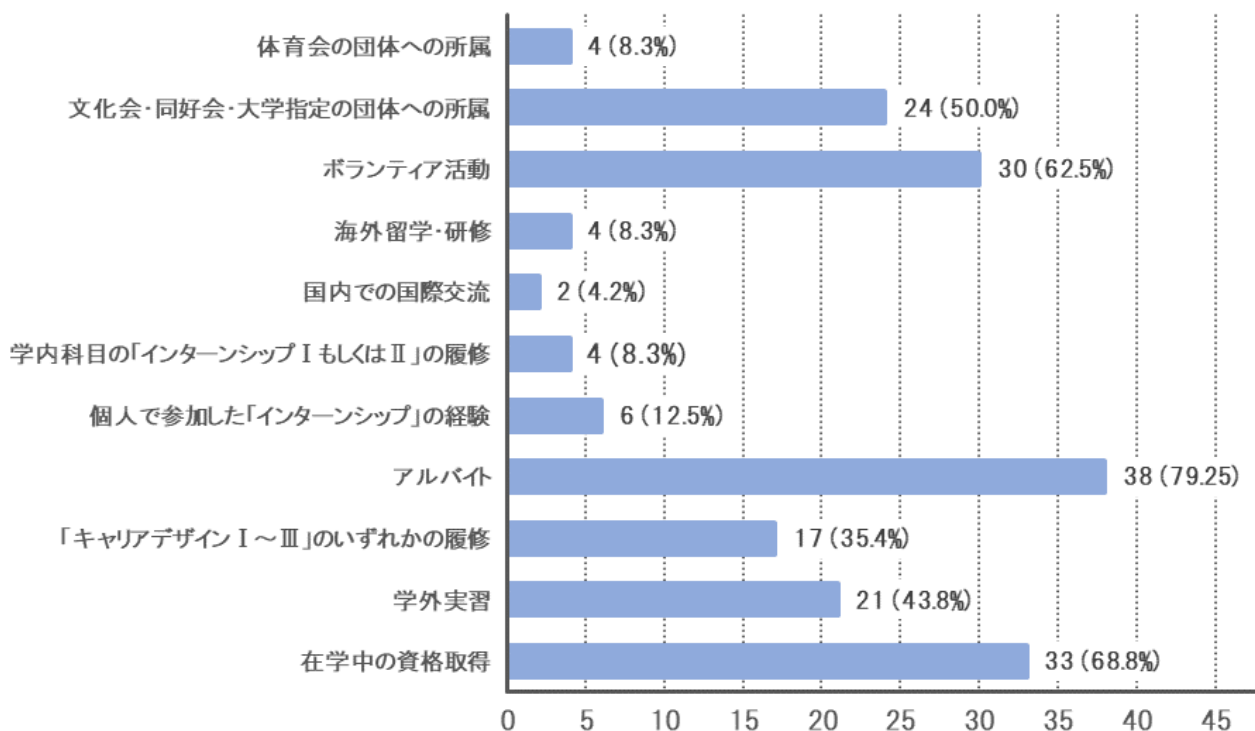


図3 在学中の経験 (n=48)

3. 在学中の学びの満足度・成果

1) 各質問の回答結果

在学中の満足度・成果に関する項目の回答結果を図4～6に示した。どの項目においても3か4と回答している者が全体の85%以上であり、在学中の学びについて肯定的な評価がなされていると考えられる。

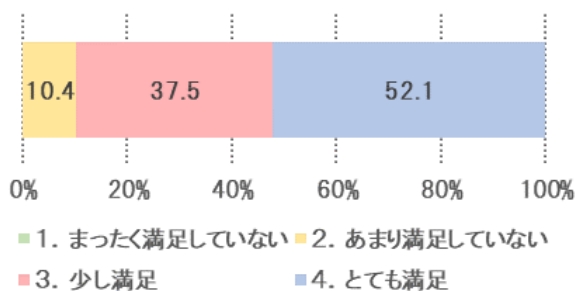


図4 東北福祉大学で学んだことについてどの程度満足ですか？(n=48)

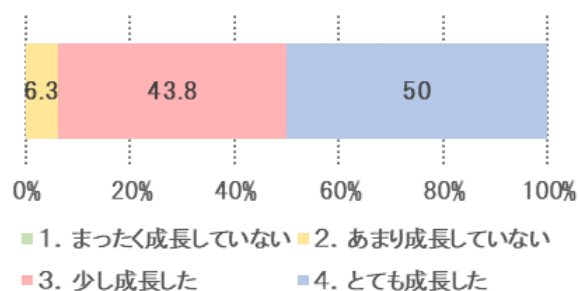


図5 在学中の学びと経験を通してどの程度成長したと思いますか？(n=48)

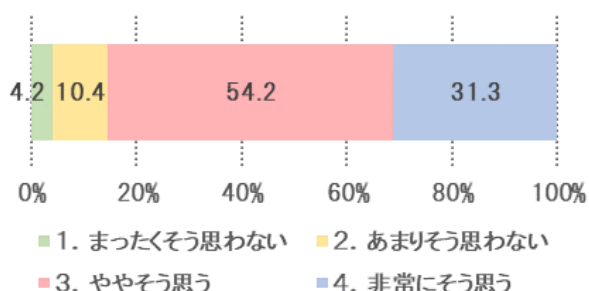


図6 本学のキャリア教育の目標¹⁾がどの程度身に付いたと思いますか？(n=48)

¹⁾「自らかかわる(主体性)、自ら考える・気づく(課題発見能力など)、自らアクションを起こす(実行力)」

2) 調査時の仕事の充実感との関連

「在学中の学び・成果」と「調査時の仕事の充実感」との関連を検討するために、各評定値について相関分析を行った。表9にそれぞれの相関係数(-1~1の値で-1や1に値が近いほどデータ上の強い関連を示す値)の値を示した。相関分析の結果、「調査時の仕事の充実感」と「キャリア教育の修得度」との間に統計的に有意な正の相関($r=.39$)が示された。つまり、今回の回答者においては、大学でのキャリア教育の目標が身に付いたと感じている人ほど、調査時の仕事に対する充実感が高い傾向にあることが明らかとなった。表3に示した通り、今回の回答者の半数以上は本年度から職業生活をスタートさせた卒業生であった。したがって、この結果は、本学のキャリア教育が職業生活へのスムーズな移行に寄与していることを示唆するものであると考えられる。また、逆に、卒業後従事する仕事に充実感を感じる中で、本学のキャリア教育を通じた経験やその習得が見直された結果であると解釈することも可能であろう。

表9 「在学中の学び・成果」と「調査時の大学に対する評価との関連」 (*:p<.05)

	大学での学びに対する満足度	在学中の学びや経験を通じた成長	キャリア教育の修得度
調査時の仕事の充実感	.14	-.004	.39*

4. 回答者の調査時の大学に対する評価について

1) 各質問の回答結果

回答者の調査時の大学に対する評価に関する項目の回答結果を図7～10に示した。「ややそう思う」「非常にそう思う」のいずれかに回答した割合は最も低いもので「すべての質問で65%を超え、評定平均値も最も低いもので「東北福祉大学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活やキャリア形成に役立っているか?」の68.7%であり、その他の質問では80%をこえていた。今回の回答者の多くが卒業後も東北福祉大学に対して比較的良好な評価をしていると言えよう。今回の調査は卒業生に対して同窓会のホームページなどを通して調査の協力を依頼した。東北福祉大学に対する肯定的な評価がこのような調査に協力する動機づけの1つとなった可能性が考えられる。

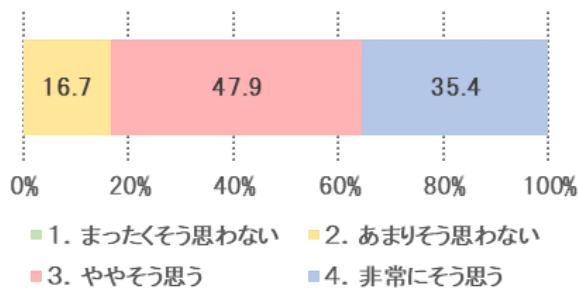


図7 東北福祉大学を勧めたいと思うか?

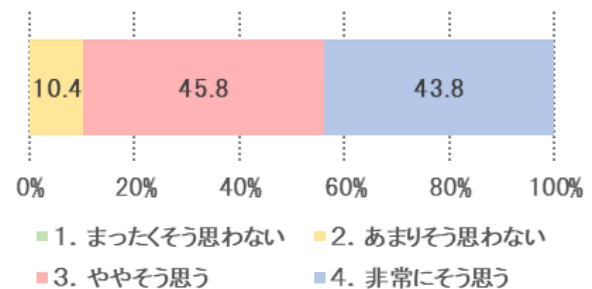


図8 東北福祉大学に在学したことを誇りに思うか?

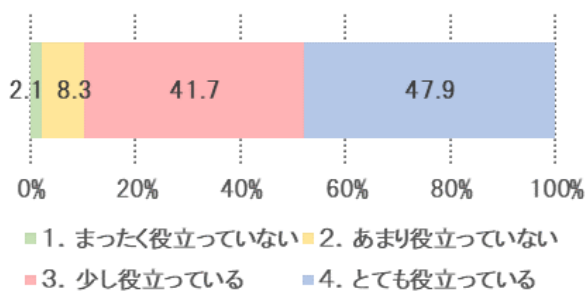


図9 東北福祉大学での学びや経験は、その後の社会生活やキャリア形成に役立っているか?

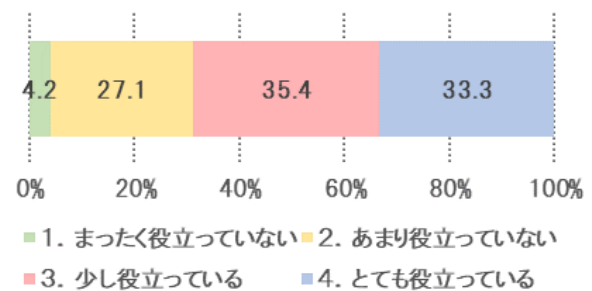


図10 東北福祉大学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活やキャリア形成に役立っているか?

2) 調査時の仕事の充実感及び在学中の学び・成果との関連

「在学中の学び・成果」と「調査時の大学に対する評価」との関連を検討するために、各評定値について相関分析を行った。表 10 にそれぞれの相関係数の値を示した。相関分析の結果、すべての組み合わせで統計的に有意な相関が明らかとなった。在学中の学びに対する満足度が高いほど、また、在学中の学びや経験を通して成長や習得を感じているほど、調査時の大学に対する評価が高い傾向にあることが明らかとなった。

表 10 「在学中の学び・成果」と「調査時の大学に対する評価との関連」

	東北福祉大学を働 めたいと思うか？	在学したことを誇りに 思うか？	知識や経験は、その後の人 生に役立っているか？	人とのつながりは、その後の 人生に役立っているか？
大学での学びに対 する満足度	.590**	.630**	.598**	.615**
在学中の学びや 経験を通じた成長	.445**	.625**	.738**	.485**
キャリア教育の修 得度	.550**	.632**	.608**	.539**

**: $p < .01$ *: $p < .05$

5. 現在の社会生活や職業生活をふまえた大学での学びや経験の評価

本調査では、在学中の学びや経験について表 11 に示す 29 の項目を示し、現在の社会生活や職業生活をふまえ「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られ良かった」と思うもの、さらには、「足りなかった」「もっと力を入れてほしかった」と思うものを選択するよう求めた。その結果を表 11 と図 11 に示した。(表 11 で太字となっているものは、選択数が 20%を超えるものである)

「役立っている」「経験・学習の機会が得られ良かった」内容として挙げられた項目の数に着目すると、平均 6.79 個(SD:4.60,range:1-19)であった。最も多く挙げられた項目は「資格・免許の取得」(58.3%)であり、次いで「多くの仲間との出会い」(54.2%)、「傾聴および考え・気持ちを伝えるコミュニケーション力の修得」(47.9%)「専門的な知識と技能(技術)の修得」(47.9%)が多く挙げられた。逆に「就業力や社会人基礎力を培う初年次からのキャリア教育への参加」を挙げた回答者は 1 名もおらず、次いで、「OB/OG 訪問・企業業界研究などの体験型のキャリア教育の実施」「女性のライフプランニングなど多様なキャリア形成」の割合が少なかった(4.2%)。

一方、「足りなかった」「大学からの支援としてもっと力を入れてほしかった」内容として挙げられた項目の数は、平均 3.52 個(SD:3.37,range:0-13)であった。挙げられた項目で最も多かったのは、「語学力の修得」(43.8%)であり、次いで「グローバルな視点から考える力の修得」(25.0%)、「実践的な知識と技能(技術)の修得」「物事を多角的、論理的、柔軟に考え、表現する力の修得」(ともに 20.8%)であった。「語学力の修得」「グローバルな視点から考える力の修得」はこれまでの調査でも同様の結果が得られており、引き続き国際社会に向けた人材の育成が求められることが示唆されたと言えよう。

表 11 現在の社会生活や職業生活をふまえた大学での学びや経験の評価

	1) 「役立っている」「経験や学習・修得の機会が得られ良かった」			2) 「足りなかった」「大学からの支援としてもっと力を入れてほしかった」		
	人数	%	順位	人数	%	順位
広く深い教養	13	27.1	13	5	10.4	15
専門的な知識や技能	23	47.9	3	3	6.3	20
実践的な知識や技能	15	31.3	9	10	20.8	3
語学力	4	8.3	21	21	43.8	1
傾聴・コミュニケーション力	23	47.9	3	9	18.8	5
図表を活用・表現する力	3	6.3	25	8	16.7	6
情報通信技術(ICT)を活用する力	7	14.6	19	7	14.6	8
多角的・論理的思考、思考の柔軟性	10	20.8	14	10	20.8	3
答えを探す・見つける力	15	31.3	9	6	12.5	11
問題を発見し、情報を集め、考える力	10	20.8	14	6	12.5	11
グローバルな視点から考える力	3	6.3	25	12	25.0	2
地域の視点から考える力	5	10.4	20	3	6.3	20
自己の心身の健康を管理する力	10	20.8	14	6	12.5	11
社会生活や人間関係に必要な規範、ルール、配慮	14	29.2	12	4	8.3	17
資格・免許	28	58.3	1	5	10.4	15
キャリアセンター主催の対策講座・セミナーへの参加	4	8.3	21	6	12.5	11
体験型のキャリア教育への参加	2	4.2	27	7	14.6	8
初年次からのキャリア教育への参加	0	0.0	29	7	14.6	8
多様なキャリア形成	2	4.2	27	3	6.3	20
社会と接する経験(アルバイトやインターンシップなど)	17	35.4	5	4	8.3	17
多くの仲間との出会い	26	54.2	2	2	4.2	24
実習など実践の場と接するの経験	16	33.3	7	2	4.2	24
ボランティア活動などの社会に役立つ経験	15	31.3	9	2	4.2	24
多様な文化や異文化の人々と接する経験	4	8.3	21	8	16.7	6
チームで協働して取り組む経験	4	8.3	21	3	6.3	20
学業以外で自分を成長させる経験	10	20.8	14	2	4.2	24
感性の涵養	10	20.8	14	2	4.2	24
余暇の充実	16	33.3	7	2	4.2	24
自己探求	17	35.4	5	4	8.3	17

太字となっているものは、選択数が20%を超えるもの

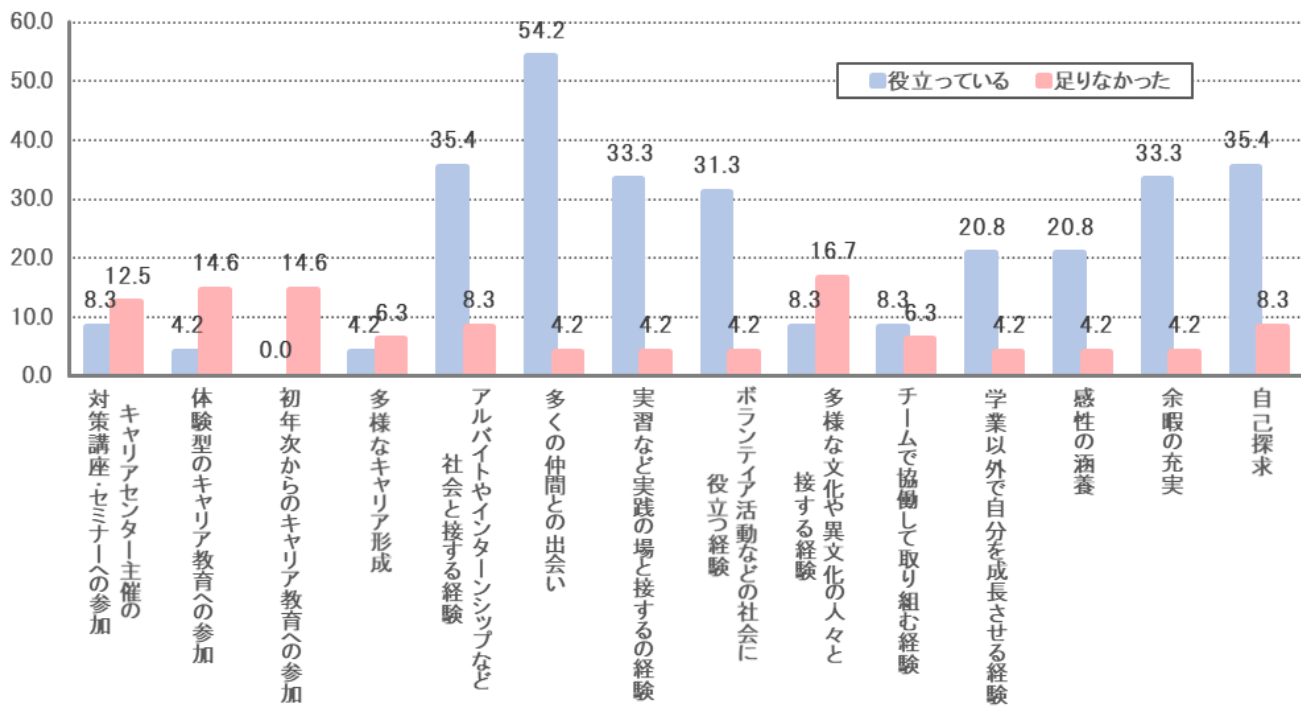
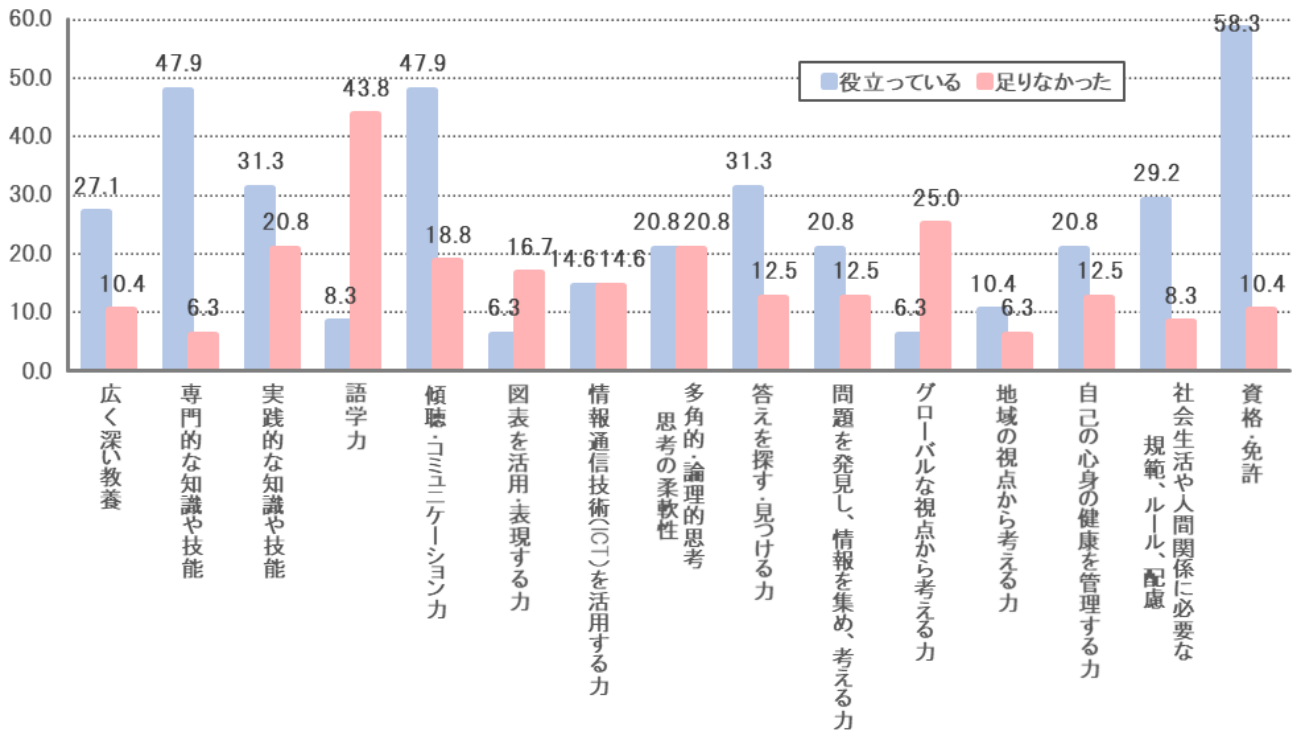


図 11 現在の社会生活や職業生活をふまえた大学での学びや経験の評価

2018年度 卒業生アンケート調査項目

基本属性 項目ごとに当てはまるものにチェック（✓）を付けてください。

1. 性別（男・女）

2. 入学年度（2010年度以前・2011年度・2012年度・2013年度・2014年度）

3. 卒業後の年数（1年未満・1年以上2年未満・2年以上3年未満）

4. 最終年度に所属していた学科

（社会福祉学科・社会教育学科・福祉心理学科・産業福祉学科/産業福祉マネジメント学科
情報福祉学科/情報福祉マネジメント学科・子ども教育学科/教育学科・保健看護学科
リハビリテーション学科・医療経営管理学科）

5. 現在の職業等

（社会福祉施設・保健医療・公務員/団体・教員・企業・その他（自営など）
・専業主夫/専業主婦・学校等在学中・就職活動中・その他（病気療養中、就職意志なしなど）

1) 社会福祉施設の方は、その種別

（老人福祉（保健）施設・障害者（児）支援施設・保育所/保育園・保育所/保育園以外の児童福祉施設・その他）

2) 企業の方は、その職種

（事務職・販売職・営業職・技術職・研究職・マーケティング/企画職・管理職・その他）

3) 現在、職業についている方は、その形態（正規・非正規）

4) 現在の仕事についてどの程度充実感を感じながら働いていますか

※ 充実感を考える際には職務・業務内容・給与条件・労働環境等様々な側面で考えることができると思いますが、今回はそれらを総合した、総括的な充実感としてお考え下さい。

（とても充実感を感じている・やや充実感を感じている・あまり充実感を感じていない・まったく充実感を感じていない）

5) 卒業後、就職した方は、離職経験（なし・1回・2回・3回以上）

I. 在学中の経験について

東北福祉大学での経験についてお聞きします。在学中を振り返って、次の経験をしましたか？ 当てはまるものにチェック（✓）を付けてください。

1) 体育会の団体への所属の経験

2) 文化会/同好会/大学指定の団体への所属の経験

3) ボランティア活動の経験

4) 海外留学/研修（交換留学、短期研修プログラムなど）の経験

5) 国内での国際交流（キャンパス内、地域での活動など）の経験

6) 学内科目の「インターンシップⅠもしくはⅡ」の履修

7) 個人で参加した「インターンシップ（企業等における就業体験）」の経験

- 8) アルバイトの経験
- 9) 「キャリアデザインⅠ～Ⅲ」のいずれかの履修
- 10) 各種学外実習の経験
- 11) 在学中に大学での学習を通して取得した資格・免許

Ⅱ. 在学中の学びと経験について

東北福祉大学での学びと経験についてお聞きします。在学中を振り返って、次の各項目について、もっとも当てはまるものにチェック（✓）を付けてください。

- 1) 東北福祉大学で学んだことについてどの程度満足ですか？
(とても満足している・少し満足している・あまり満足していない・まったく満足していない)
- 2) 東北福祉大学に在学中の学びと経験を通してどの程度成長したと思いますか？
(とても成長した・少し成長した・あまり成長していない・まったく成長していない)
- 3) 本学のキャリア教育の目標「自らかかわる（主体性）、自ら考える・気づく（課題発見能力など）、自らアクションを起こす（実行力）」がどの程度身に付いたと思いますか？
(とても身に付いた・少し身に付いた・あまり身に付いていない・まったく身に付いていない)

Ⅲ. 大学に対する思いについて

東北福祉大学に対するあなたの思いについてお聞きします。次の各項目についてもっとも当てはまるものにチェック（✓）を付けてください。

- 1) 身近に、私立大学への進学を希望する者がいる場合、東北福祉大学を勧めたいと思いますか？
(とてもそう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・まったくそう思わない)
- 2) 東北福祉大学に在学したことを誇りに思いますか？
(とてもそう思う・ややそう思う・あまりそう思わない・まったくそう思わない)
- 3) 大学での学修や経験は、その後の社会生活やキャリア形成に役立っていますか？
(とても役立っている・少し役立っている・あまり役立っていない・まったく役立っていない)
- 4) 大学で得た人とのつながりや人脈は、その後の社会生活や職業生活に役立っていますか？
(とても役立っている・少し役立っている・あまり役立っていない・まったく役立っていない)

V. 大学での学びと経験に関する改善・要望について

東北福祉大学を卒業した後の社会生活や職業生活をふり返ったとき、在学中の様々な経験・学習の中で

- 1) 「役立っている」「経験・学習の機会が得られて良かった」と思うこと
 - 2) 「足りなかった」「大学からの支援としてもっと力を入れてほしかった」と思うこと
- について、次の各項目のうち当てはまるものすべてにチェック（✓）を付けてください。

- 広く深い教養の修得
- 専門的な知識や技能（技術）の修得
- 実践的な知識や技能（技術）の修得
- 語学力の修得
- 傾聴および考え・気持ちを伝えるコミュニケーション力の修得
- 図表を活用して理解し、考え、表現する力の修得
- 情報通信技術（ICT）を活用して情報を集め判断する力の修得
- 物事を多角的、論理的、柔軟に考え、表現する力の修得
- 自ら考え、周囲と協力し” 答えを探す・見つける力” の修得
- 問題を発見し、情報を集め、考える力の修得
- グローバルな視点から考える力の修得
- 地域の視点から考える力の修得
- 健康管理やストレスへの対処、意欲・やる気の維持などの自己管理の修得
- 社会生活や人間関係に必要な規範、ルール、配慮の修得
- 資格・免許の取得
- キャリアセンター主催の各種対策講座・セミナーへの参加
- OB/OG 訪問・企業業界研究などの体験型のキャリア教育の実施
- 就業力や社会人基礎力を培う初年次からのキャリア教育への参加
- 女性のライフプランニングなど多様なキャリア形成
- アルバイトやインターンシップなど社会と接する経験
- 多くの仲間との出会いの経験
- 施設実習や各種実習など、実践の場との接点の経験
- ボランティア活動や地域貢献活動など、社会に役立つ経験
- 国際交流など多様な文化や異文化の人々との接点の経験
- 問題解決や目標達成にチームで協働して取り組む経験
- 課外活動など学業以外で自分を成長させる経験
- 美しいものや善いもの、人の気持ちを感じとる感性を養うこと
- 自分の好きな活動に時間を割くこと
- 自分自身がどういう人間なのかを考えること

[自由記述]

- 1) 具体的な改善や要望のご意見がありましたら、自由にお書きください。
- 2) 卒業生への支援（卒業生向けサービスを含む）について改善や要望のご意見がありましたら、自由にお書きください。